

# 真の幹細胞とは

新科学・歴史観シリーズ①  
生命論補遺

## 新たな生命論の創出を！！

これまで、私達は生命を真に科学的にとらえる立場から多くの問題を  
取り上げてきた。

なかでも、生命が不断に物質交代する特殊な物質の運動形態であり、  
“柔体”というべき高度な物質のあり方であり、動的な統一された有機  
体であることなどを解明してきた。

最近の生命・生物・医学などの動きは、生命に対する上記の見地が、  
いかに正しいかをますます示すものとなっている。

だが、重要なことは、単に明らかにしてきた解明だけに終わらせてはな  
らず、これをいっそう深め、発展させることなのである。

なぜなら、時とともに進む様々な生物、医学上の知見に合わせて私達  
自身の見解をも、ますます前進させねばならないからである。

こうした対場から、今回は最近、世をにぎわせた人工幹細胞に関する  
諸問題を検討しつつ、ここから私達が明確にすべき科学的な原則と見  
解を解明することとした。

そして、その批判的検討を通じて、これまで提起した生命論をいっそう  
肉付けし、発展させる新たな内容として、生体物質の代謝を媒介する  
酵素の役割を生命論として位置付けることを試みたものである。

### 目次

第1章 人工幹細胞の根本的矛盾

第2章 幹細胞の本質と役割

第3章 酵素ワールドとしての生命体

終章 生命を見る新しい観点はどこにあるのか

(十勝均整社刊 A4版 32頁)